

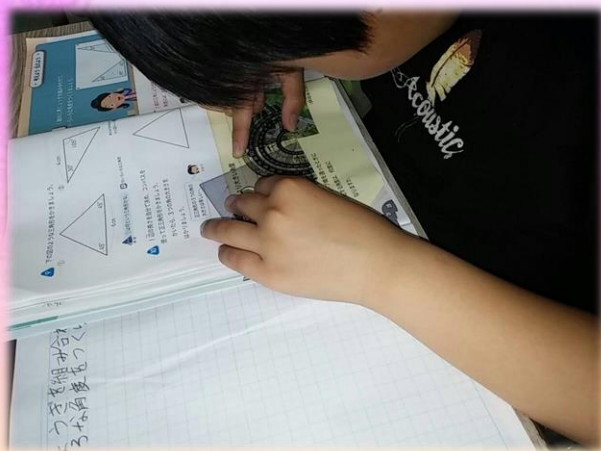
複式指導資料第34集（平成29年度）
岩手の小規模・複式指導ハンドブック



各教科等の指導を通して資質・能力を育む

複式指導のための資料集

～ 5 つの実践事例と 10 の Q & A ～



平成30年3月
岩手県教育委員会

目 次

- ・はじめに
- ・実践事例 1 (国語 5, 6 年) 一関市立本寺小学校 1
 - ～全国学調の問題や授業アイデア例を活用～
 - 第 5 学年「次への一歩～活動報告書」、第 6 学年「ようこそ、私たちの町へ」
 - Q 1 複式学級の学習指導案はどう作成すればよいのか？
 - Q 2 国語の物語文や説明文で読みを深める手立てとは？
 - Q 3 複式学級で、各教科の資質・能力をどう育むか？
- ・実践事例 2 (算数 1, 2 年) 葛巻町立小屋瀬小学校 5
 - ～適用問題で、次時の内容を発展的に考える～
 - 第 1 学年「ひきざん」、第 2 学年「九九をつくろう」
 - Q 4 各教科の基礎・基本の定着はどうなっているの？
 - Q 5 算数で、教科書を開く授業のメリットとデメリットは？
 - Q 6 間接指導の学習活動をどう支援するか？
 - Q 7 サポートの先生とどう役割分担するか？
- ・実践事例 3 (算数 3, 4 年) 二戸市立御返地小学校 9
- ・実践事例 4 (社会 3, 4 年) 岩手大学教育学部附属小学校 11
- ・実践事例 5 (国語 3, 4 年) 雫石町立橋場小学校 13
 - Q 8 両学年の子供に、学習の見通しをどうもたせるか？
 - Q 9 黒板や座席配置のメリットとデメリットは？
 - Q 10 学びを振り返ったり深めたりする時間を確保するには？
- ・協力校, 作成協力, 参考文献

はじめに

平成29年3月に告示された新学習指導要領では、教育基本法や学校教育法などを踏まえ、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理するとともに、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して育む資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進などが求められています。

本県では、30%近い小学校が複式学級を有しており、小規模・複式指導の充実を図ることは、「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた、社会に適応する能力を育てる「人間形成」のために欠くことのできない視点となっています。複式学級では、さまざまな課題が生じ得るといわれていますが、各学校では「カリキュラム・マネジメント」の視点で、複数学年の内容等と向き合い、それぞれの指導目標の達成に向けて目の前にいる子供の学びの姿に寄り添いながら、直接指導と間接指導を組み合わせた不断の授業改善が進められております。近年の諸調査等における成果は、教育の不易と流行を兼ね備えた複式学級という最前線で、先生方が日々取り組んできた献身的な指導の賜物に他なりません。

そこで、今年度は「何ができるようになるか」の視点から、各教科等における資質・能力を育成する授業改善の取組を活性化していくことを目指し、学校公開研究会等から**2つの実践事例**と平成28年度第33集の**3つの実践事例**、県内の先生方からお寄せいただいた質問等を**10のQ&A**に整理し、複式指導資料を発刊することといたしました。

この指導資料が、複式学級を担当される先生方にとって、より適切で的確な各教科等の指導の展開を支援するハンドブックとして活用されることを期待しております。

岩手県教育委員会事務局学校教育課



全国学調の問題や授業アイデア例を活用



・【書くこと】の指導において、第5学年では「事実をしっかり捉えさせた上で考えを書く力」、第6学年では「相手意識を明確にして、よさを伝えるために必要な情報を選んで書く力」を身に付けさせたいと考え、その活動を直接指導できるように工夫しています。



実践事例(1)

第5学年

<参考> 平成28年度全国学力・学習状況調査小学校国語B2「早ね早起き朝ご飯運動」問題、授業アイデア例

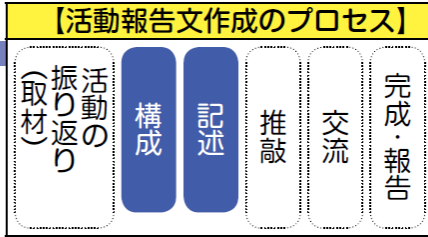
第1次 (2時間)

- 自分たちの委員会の活動目標を確認し、活動を振り返る。
- 活動報告書を書く目的や意図、その位置付けを確認し、学習計画を立てる。

目標設定

活動計画・内容

実際の活動



次の活動計画

(図1) 朝ご飯運動実施状況表

学年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
5年	15.4	33.3	30.8	20.5					100.0
6年	15.4	35.9	28.2	20.5					100.0

○「早ね早起き」活動のまとめ
1 成果
アンケート調査の結果、これまでの半年間の活動が成果を上げることが分かりました。
「次の日に学校がない日」に夜中まで起きてしまう人の割合が全学年平均を上回り、早ね早起きで起きるようになった人でも、それ以外の活動後には起床時間まで起きている人の割合が、一時的に減少していることが分かった。
2 課題
成果があった一方、生活のリズムを戻すという点で、今回の活動では改善できず、これから解決していきたい課題があることが分かりました。

第2次 (6時間)

- 活動報告書の例を基に、構成要素や書きぶり、その効果などを話し合う。
- 自分たちの委員会で取り組んだ活動内容を、図や表、グラフなどで表し、成果と課題を明らかにする。
- 報告書の構成を考える。
- 構成に基づいて、自分たちの委員会活動の成果と課題、解決方法を書く。
- 目的や意図と照らし合わせて推敲し、必要に応じて書き加える。

<第2次③/10：展開イメージ>



教師

モデル文の文末表現に着目して、「事実」と「考え」が書かれているところを分けてみましょう。

事実は、具体的な数値などを使って「～わかりました。」「～でした。」の文末です。

考えは、「～と考えます。」「～と思います。」という書きぶりになっていて、アンケート調査の結果を基に改善方法を考えられたらいいね。

では、モデル文を参考に、図2と表2から、課題と改善方法を見つけて、「事実」と「考え」に分けて書いてみましょう。

図2から、5月と11月でほとんど変化がないことがわかるから、これが課題といえるんじゃないかな。

そうだね。それを事実に書いて、表2から具体的な数字を取り上げて、わかることを基に改善方法を考えて書いてみよう。

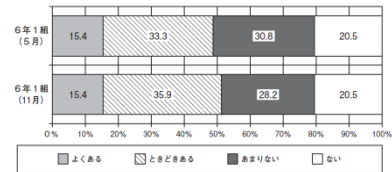
「課題は、次の日に学校がない日は、ねる時間が2時間遅くなる人の割合にほとんど変化がないことです。改善方法は、テレビを見たりゲームをしたりする時間を何時までにするかを決めることだと考えます。」

では、次の時間は、今日学習したことを使って、自分たちの委員会で取り組んだ活動について成果と課題を明らかにしていきましょう。

授業アイデア例の学習計画や問題を活用して実践します。

(図2)

次の日に学校がない日は、学校がある日と比べて、ねる時間が2時間以上おそくなることはありますか。



(表2)

ねる時間が2時間以上おそくなる理由は何ですか。(いくつ答えてもかまいません。)(6年1組 11月)

夜おそくまでテレビを見たり、ゲームをしたりしているから。	20人
夜おそくまで友達とメールなどをしているから。	14人
休みの日は「健康せんげんカード」に記録しなくてもいいから。	10人
家族のみんなも起きているから。	4人
その他	7人

Point!

第3次 (2時間)

- 活動報告書を読み合い、構成や内容について交流する。
- 活動報告書を書くことで、自分に身に付いた力を話し合う。今後の委員会活動に取り入れたいことを話し合う。

「次への一步～活動報告書」

(光村図書「国語五」P.88～93)

本時の評価規準<書くこと>

- ・活動報告文の事実と考えの記述のしかたを区別して、簡単な文章を書いている。

「ようこそ、私たちの町へ」

(光村図書「国語六」P.78～83)

本時の評価規準<書くこと>

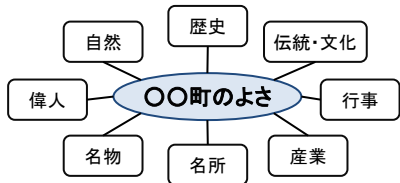
- ・簡単な構成について話し合い、必要な情報をわかりやすく書き加えている。

第6学年

<参考>平成25年度全国学力・学習状況調査小学校国語B②「打ち上げ花火の伝統」問題、授業アイデア例

第1次(2時間)

- ① 自分たちの町のよさについて話し合い、伝えたい相手や目的を考える。
- ② 実際のパンフレットを参考にして作成のイメージをつかみ、学習計画を立てる。



第2次(6時間)

- ③ モデルを基に、構成や伝えたいことを話し合い、条件に合わせて必要な情報を書く方法を知る。
- ④⑤ 内容の分担と紙面の構成を考え、取材(記事の下書き)をする。
- ⑥ 記事の下書きを持ち寄り、必要な情報が書かれているか話し合う。
- ⑦ パンフレットの再構成・記事の再取材をし、必要な情報を書き加える。
- ⑧ 伝えたい相手や目的と照らし合わせて推敲し、必要に応じて書き加える。

<第2次③/10:展開イメージ>



教師

リーフレットに何が書かれているか、記事に見出しを付けてみましょう。



生徒

構成を確かめ、その記事で何を伝えたいのか話し合ってみましょう。



生徒

①は「打ち上げ花火の歴史」かな。約200年前に中国から来たんだね。



生徒

②は「花火の種類」だと思う。写真もあって、違いがわかりやすいよ。



生徒

③は「花火師の声」じゃないかな。花火師の苦労と思いが伝わってくる。



生徒

私たちのパンフレットにもインタビューした記事が必要だと思う。

ところで、①の「塩素酸カリウムなどが輸入」は花火とどんな関係があるの？



教師

よいところに気付きましたね。足りない情報があったら、再取材して書き加えることが大切なんです。【ずかんの一部】を基に書き加えてみましょう。



生徒

「海外から塩素酸カリウムなどが輸入されるようになったことで、さまざまな色や明るさの打ち上げ花火をつくるできるようになりました。」



教師

では、次の時間は、自分たちの町のよさを伝えられるような内容を考え、分担と紙面の構成を考えていきましょう。

【下書きの一部】※一人一人が分担して書いた内容を一枚に構成したものをここから読み始めましょう。

【ずかんの一部】

開国後、花火師たちはさまざまな色や明るさの打ち上げ花火を作ることができるようになりました。これは、1879(明治12)年ごろ、海外から塩素酸カリウムなどが輸入されるようになったからです。

～(内容が続く)～

第3次(2時間)

- ⑨ パンフレットを読み合い、構成や内容について交流する。
- ⑩ パンフレットを書く過程を振り返り、自分に身に付いた力について話し合う。



複式学級の学習指導案はどう作成すればよいのか？

<先生方の声から>

- ・次年度から複式学級になったときに、授業の進め方や学習指導案の作り方など、単式学級と異なる点について想像が付かないところがあり、見通しが立たなくて困っています。

複式学級と単式学級で別々に考えてしまいがちですが、各教科等の目標や指導内容は共通なので、授業づくりも原則共通だと考えます。特に「ずらし」のない授業の場合は、授業展開は単式学級のときと同じと捉えてよいでしょう。学習指導案の様式等は各学校で工夫いただいているものでかまいませんが、複式学級では**直接指導**と**間接指導**を組み合わせる都合上、「**授業者の動き**」の欄を展開案に位置付けることが多いようです。また、両学年の**単元の指導計画**をどのように組み合わせるか、**共通導入・共通終末**を取り入れるかなど、複式学級ならではの視点が必要になる場合もあります。

<「ずらし」のない展開例>

下学年			上学年	
主な学習活動 反応例	指導上の留意点 評価場面	授業者 の動き	主な学習活動 反応例	指導上の留意点 評価場面
1. 課題把握 []			↓ ↓ ↓ ↓ ↓	1. 課題把握 []
2. 課題追求		2. 課題追求		
3. 解決・定着	[]	3. 解決・定着		[]
4. 適用・発展		4. 適用・発展		
5. 学習の振り返り		5. 学習の振り返り		



国語の物語文や説明文で読みを深める手立てとは？

<先生方の声から>

- ・物語文や説明文で、間接指導と直接指導をうまくつなげながら読みを深めるための手立てがうまくいかないことが課題です。どのような手立てが考えられますか？

国語の「読みを深める手立て」については、学習指導要領解説編における「**C 読むこと**」の説明的な文章の解釈及び文学的文章の解釈、そして自分の考えの形成及び交流に関する指導事項が該当します。

- 1 子供が身に付ける力について、当該学年の指導事項を確認し、中心学習材を通して何をどのように学ぶことがふさわしいか具体化する。
- 2 ①に基づき、単元に位置付けるのに最適な言語活動を検討する。
- 3 子供の実態に応じて単元の指導計画を構想する。
- 4 単位時間に働かせる「言葉に対する見方・考え方」や新たに学ぶ読みの能力は何かを捉える。
- 5 その上で、両学年の間接指導と直接指導を検討する。

上記①から④については、複式学級だけではなく国語科における教材分析の重要な視点です。特に、指導する私たちが④について明確に捉えていることが大切です。これは、「読みを深める」ということので具体的な内容そのものであり、教師の発問と大きく関わるものだからです。その際、**単元の指導計画**に「ずらし」を位置付けて指導するなど、複式指導においても多様な指導方法が考えられます。

＜先生方の声から＞

- **単元の導入時**や**概念形成の時間**では、**直接指導**が多くなってしまい、**間接指導**を効果的に行うことができません。研究協議ではいつもそのことが話題になりますが、なかなか議論が深まりません。
- 複式学級の授業づくりは、単式学級のときのようにいかないことばかりで、配慮しなければならないことが多く、試行錯誤の毎日です。どのような手立てを大切にしたらよいのでしょうか？

研究協議が、複式学級の指導としてどのような手立てが有効かの議論に終始してしまう場合が時々あるようです。日々の切実な課題なのでやむを得ないところですが、それでも、**各学年で資質・能力を育む授業を実現できたのか**という教科指導にかかわる面を大切にし、その上で、他教科へどう生かしていくかという議論に広がるよう、可能な範囲で研究協議の質を高めていくことが考えられます。さらに、単式学級と複式学級を有する学校では、校内研究等でなかなか議論がかみ合わないということもあるかと思われれます。複式学級の授業研究会なら、一方の学年の展開を単式学級で行ったらどうか、単式学級の授業研究会なら、もう1つの学年の授業展開をイメージし、複式学級で行ったらどうかという視点で、両者にメリットのある研究協議にすることも考えられます。それらのバランスをとる司会者の役割も重要です。

また、単元の導入時などは、単式学級の授業のようにじっくり**直接指導**したくるところです。特に、**共通導入・共通終末**を取り入れる場合、両学年を同じような内容でそろえたくります。その際のポイントは、教科指導として、**本時の重点として直接指導しなければならないことは何か、それを学習過程のどこに位置付けるか、そして、いかに子供の学習状況を適切に見取って評価するか**などの面から**直接指導**の内容を厳選し、**間接指導**に切り替える内容を増やすことでしょう。例えば、算数の概念形成では、既習と未習の複数提示から共通点や相違点を見いだす過程が大切にされています。**間接指導**で、複数の問題に取り組む中で、子供が見いだしたことについて学び合えるように仕掛けることも考えられます。

「単式は複式のように。複式は、単式への架け橋として。」

複式学級では、学習指導に当たって、例えば、**カリキュラム・マネジメント**の視点から単元の指導計画をどう組み合わせるか考えたり、**主体的・対話的で深い学び**の視点からどのように間接指導の充実を図るか考えたりといった検討が日常的に行われています。したがって、**各教科等の資質・能力を育む**新学習指導要領のポイントを先行して取り組んでいると捉えることができます。**「単式学級のようにいかない。」**ではなく、むしろ**「複式学級だしたら…。」**と捉えて、逆に単式学級のほうの授業づくりを見直す取組が今後は求められるようになるのかもしれませんが。

本県には、複式学級を有する小学校が約100校あります。本県ならではの視点の一つとプラスに捉え、複式学級と単式学級のどちらにもメリットのある授業改善を図ることができればと願っています。



実践事例(1)

活用のポイント!

- 一関市立本寺小学校の実践では、身に付けさせたい**資質・能力等**を明確化し、単元の学習計画やモデル文に、両学年で**全国学力・学習状況調査の問題**や**授業アイデア例**を効果的に活用しています。
- 下学年で**直接指導**から**間接指導**の流れで教えて考えさせる指導を位置付けたり、上学年で**間接指導**から**直接指導**の流れで子供の気付きを生かしたり、両学年の子供が見通しをもって活動に取り組む**主体的な学び**が実現するように工夫しています。

適用問題で、次時の内容まで発展的に考える

算数

葛巻町立
小屋瀬小学校
1, 2年

- ・系統性を生かしたカリキュラム・マネジメントのある単元計画により、統合的・発展的に考え、適用問題で次時の内容にも取り組めるようにしています。
- ・子供たちが、自力解決から学び合いまで主体的に取り組めるようにし、書く活動を大切に思考を可視化するなど、**間接指導の充実**を図っています。



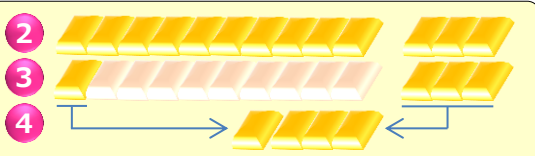
実践事例(2)

第1学年

前の時間にやった13-9の計算のしかたを練習しましょう。

教師

$$\begin{array}{r} 13-9 \\ \underline{10} \quad 3 \end{array}$$



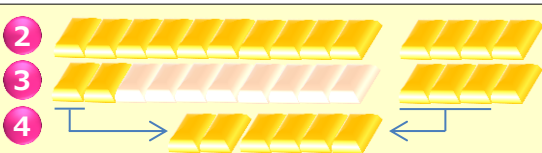
- 1 3 から 9 はひけない。
- 2 13 を 10 と 3 にわける。
- 3 10 から 9 をひいて 1。
- 4 1 と 3 で 4。

10のまとまりからひきました。

▶ 14-8のけいさんのしかたをかんがえよう。

9をひく問題と同じように、8をひく問題もできるかな？
図やブロック、ことばで考えてみましょう。

$$\begin{array}{r} 14-8 \\ \underline{10} \quad 4 \end{array}$$



- 1 4 から 8 はひけない。
- 2 14 を 10 と 4 にわける。
- 3 10 から 8 をひいて 2。
- 4 2 と 4 で 6。

まちがってるかもしれないから、
黒板でやってみようか。

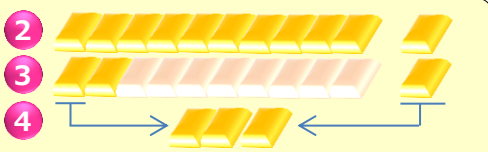
間接指導の場面でも、学び合いの活動を、子供たちが
主体的に始められるようにしています。

おっ!? じゃあ、先生が見ているからやってみて。

まだ、ことばを書いている人がいるから、
いっしょに確かめながら書いてみようか。

4で、11-8の計算のしかたを、図に表したり、
お話ししたりしましょう。

$$\begin{array}{r} 11-8 \\ \underline{10} \quad 1 \end{array}$$



- 1 1 から 8 はひけない。
- 2 11 を 10 と 1 にわける。
- 3 10 から 8 をひいて 2。
- 4 2 と 1 で 3。

同じように、
11-7、11-6、11-5
の計算のしかたも考えてみ
ましょう。

【学習の振り返り】

- ・11-7の計算はできたけど、11-6はわからなくて、教えてもらいました。11-5はがんばってできるようにしたいです。

Point!

10のまとまりから5をひけば、もうできるよ。

「ひきざん」

(東京書籍「あたらしいさんすう1下」P.19,20)

本時の評価規準<数学的な考え方>

- ・簡単な場合について、減法の計算のしかたを考えている。

「九九をつくろう」

(東京書籍「新しい算数2下」P.32~34)

本時の評価規準<数学的な考え方>

- ・乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かしている。

第2学年

前の時間に、かけ算で2つのきまりを学習しましたね。覚えていますか？

6の段で、かけられる数とかける数を逆にしても、答えが同じになった。

6の段で、かけ算どうしのたし算が使えた。

7の段でも、かけ算の2つのきまりが成り立つか調べよう。

7の段でも、かけられる数とかける数を逆にしても、答えが同じになるね。

$2 \times 7 = 14$ 、 $3 \times 7 = 21$ 、 $4 \times 7 = 28$ 、 $5 \times 7 = 35$ 、…、答えは同じになる。

かけ算どうしのたし算ができるか、6の段と1の段で調べてみたよ。

私は、5の段と2の段で調べてみたよ。

2つ調べた人いる？ 3の段と4の段とか…？

6の段のときは、3の段と3の段で同じ数の段があったけど、今日は7の段だから…。

みんな、答えは7の段と同じになりましたか？

かけ算の2つのきまりは、6の段でも、7の段でも成り立つんですね。

Point!

このかけ算の2つのきまりは、他の段でも成り立つと思いますか？

8の段とかでも成り立つんじゃない？!

えっ?! ホントにできるの？

それでは、かけ算どうしのたし算のきまりを使って、試しに、8の段の九九をつくってみましょう!

適用問題を工夫することで、統合的・発展的に考える活動に主体的に取り組めるようにしています。

6の段と2の段で8の段をつくってみる。

4の段と4の段とかもやってみたい。

私は、5の段と3の段で調べてみるよ。

8の段の九九が簡単にできそう!

7のだんのきまり かけ算のたし算はできるか？



① ⑥のだんと①のだんにわける。赤でかこむ。

② わけただんの かけ算とたし算をする。

6のだん	1のだん	たし算
$6 \times 1 = 6$	$1 \times 1 = 1$	$6 + 1 = 7$
$6 \times 2 = 12$	$1 \times 2 = 2$	$12 + 2 = 14$
$6 \times 3 = 18$	$1 \times 3 = 3$	$18 + 3 = 21$
$6 \times 4 = 24$	$1 \times 4 = 4$	$24 + 4 = 28$
$6 \times 5 = 30$	$1 \times 5 = 5$	$30 + 5 = 35$
$6 \times 6 = 36$	$1 \times 6 = 6$	$36 + 6 = 42$
$6 \times 7 = 42$	$1 \times 7 = 7$	$42 + 7 = 49$
$6 \times 8 = 48$	$1 \times 8 = 8$	$48 + 8 = 56$
$6 \times 9 = 54$	$1 \times 9 = 9$	$54 + 9 = 63$

③ 7のだんの九九と同じになりましたか。

ちろ



【学習の振り返り】

- ・7の段でもかけ算どうしのたし算ができることがわかりました。8の段でもできました。もしかしら、9の段でもたぶんできるとおもいます。



各教科の基礎・基本の定着状況はどうなっているの？

<先生方の声から>

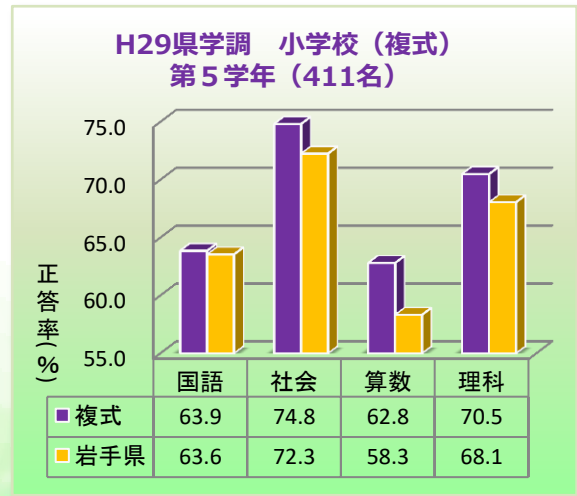
- 毎日、どうか授業を進めています。少人数なので、個々の子供に目が向いてしまいます。諸調査の結果や分析資料等を活用しようとしても、なかなかうまくいきません。
- 既習事項が十分に定着できていないと感じることが多く、本時の内容もどれだけ定着できるのか不安です。どうしたらよいものかと困っています。

諸調査の結果分析では、ヒストグラム等を用いて、全体の傾向を読み取る手法がよく使われています。しかし、小規模・複式学級では、個人の結果によって大きく左右されるため、その傾向が捉えにくいことがあります。

そこで、平成29年度岩手県学習定着度状況調査において、右のグラフのように、県内全ての複式学級の第5学年の児童を取り出して県正答率と比較したところ、全教科で上回っていることがわかりました。

平成28年度調査から2年連続で全教科が上回っているのは各学校の組織的な取組と先生方の献身的な指導が着実に成果を上げているためと思われます。

各学校では、本調査結果を踏まえ、校内研究の成果と課題を明らかにするとともに、一人一人の子供の学習状況を見取りやすいという小規模校のメリットを最大限に生かし、引き続き、小学校だからこそその教科横断的な視点や、学習評価の充実の視点など、指導法と教材研究の両面から不断の授業改善に取り組むようにしましょう。



算数で、教科書を開く授業のメリットとデメリットは？

<先生方の声から>

- 教科書で見通しをもって取り組めるのはメリットですね。しかし、子供の思考が教科書のまねに終始して、創造的に考えられなくなってしまうのではないのでしょうか？

算数の教科書を開くか、閉じさせるかについては、様々に取り組まれています。どちらがよいかというより、授業者が指導方法の選択肢を豊かにもち、習得・活用・探究という学習過程の中で、それぞれの方法のメリットやデメリット、学習内容や子供の状況等を踏まえ、本時の指導目標の達成により効果的な方法を、適宜選択することが大切です。



例えば、実践事例(3) 第3学年の評価規準にある「2位数などについての基本的な計算を基にして」の部分には教科書に明記がありません。したがって、教科書を開いてもこの点について考えさせることが可能です。教科書を閉じさせる授業では、いろいろ考えさせることができるので、この点に焦点化を図る必要があります。指導に当たっては、数学的な考え方のポイントに着目し、言語活動の充実を図ったり、指導目標の達成に必要なプラス1題を提示したりして、授業者が子供の深い学びの実現を図ることが大切です。



間接指導の学習活動をどう支援するか？

<先生方の声から>

- ・自力解決で悩んでいる児童がいても間接指導で扱うことが多く、支援の時間を確保するのが難しいと感じています。間接指導ではどのように取り組ませたらよいのでしょうか？

自力解決の学習活動では、一人一人が自分の考えをもてるようにしたいところですが、当然わからないという子供もいます。そこで、例えば、**Beforeをみる自力解決**と**Afterをみる評価場面**と捉えて、授業展開を通して「**わからない**」が「**わかった!**」に変わるようにすることが考えられます。また、算数などでは教科書を開いて活用させることで、教科書自体を「**学びのガイド**」のように用いる実践も見られます。

国語では、例えば、既習の読み深めに必要な考え方を活用し、本単元でさらに新たな考え方の習得を図る場合には、**間接指導**で自分の読みを明確にし、**直接指導**で教師の発問によって読みを深めたり読み深めに必要な新たな考え方に迫ったりする学習活動が考えられます。あるいは、**直接指導**において読み深めに必要な新たな考え方を学び、**間接指導**においてはそれを言語活動を通して活用し、自分の読みを深めていくという学習活動も考えられます。



サポートの先生と指導をどう役割分担するか？

<先生方の声から>

- ・サポートの先生がついてくれて有り難いのですが、どの単元や活動を任せたらよいかや、複式で指導するか、複式解消で単式化して指導するかなど迷っています。

小規模校では、教職員数も少ないため、様々な**支援員**や**サポートの先生**の存在が大きな力になります。複式学級の場合はなおさらだろうと思われそうですが、教員免許の有無、学校や子供の状況、教科等の特質などによって様々な役割分担が考えられるので、効果的なサポートの在り方について各学校で検討しておくことが大切です。

いずれにしても、複式学級の場合は、**間接指導**の場面で子供たちの活動を見守ってもらうだけで大きな力になります。**サポートの先生**がいるからといって、一方の学年が**直接指導**で教え込みのようになっても困ります。複式学級のメリットを生かした授業づくりには無数の正解があるはずですから、目の前の子供たちにとっての最適解が何なのか大いに議論していただければと思います。

実践事例(2)

活用のポイント!

- ・葛巻町立小屋瀬小学校の実践では、両学年とも**カリキュラム・マネジメント**の視点から**適用問題**を工夫しています。次時の内容を自然に取り入れることができるだけでなく、間接指導でも取り組みやすく、**複式学級の授業改善**を図る上で大きなメリットがあるといえます。
- ・第1学年の**学習の振り返り**から、「10のまとめ」に着目できたかどうかを的確に捉え、学習状況に応じて再確認するやりとりがありました。**数学的な見方・考え方が**働くようにすることで**深い学び**の実現を図るとともに、子供が次時の学習への見通しをもてるようにしています。

平成28年6月9日(木)
二戸市立
御返地小学校
実践事例(3)

・教科書をガイドのように活用し、子供の主体的な学びの実現を図り、テンポよく展開しています。3年生ではドリル等にも十分時間をかけています。
・4年生は、学習状況に応じて対話的な学びを適宜取り入れ、深い学びの実現を図る「考えがいのある課題」をプラスして考えさせています。



第3学年

これまでに学習した、たし算とひき算をふり返ろう。

P.52で、これまでに学習した、たし算とひき算を計算してみましょう。

$9 + 4 = 13$, $29 + 14 = 43$, $69 + 54 = 123$,
 $429 + 64 = 493$, $43 - 14 = 29$, $123 - 54 = 79$,
 $493 - 64 = 439$ 。あれっ？

$123 - 54 = 69$, $493 - 64 = 429$ だよ。
ちょうど、たし算とひき算で、たしかめ
になっているからそうだよ。

365円のパイと、472円のケーキを買います。代金はいくらですか。

$365 + 472 = 837$ じゃない？

私も同じで、837円になると思った。

▶ 筆算のしかたを考えよう。

間接指導で、多くの筆算に取り組む。

Point!

あれっ？ もう2人とも筆算できそうだね。じゃあ、P.54の ① までどんどん進んでごらん。

① $\begin{array}{r} 234 \\ +625 \\ \hline 859 \end{array}$ ② $\begin{array}{r} 508 \\ +471 \\ \hline 979 \end{array}$ ③ $\begin{array}{r} 327 \\ +164 \\ \hline 491 \end{array}$ ④ $\begin{array}{r} 418 \\ +359 \\ \hline 777 \end{array}$ ⑤ $\begin{array}{r} 187 \\ +706 \\ \hline 893 \end{array}$ ⑥ $\begin{array}{r} 134 \\ +592 \\ \hline 726 \end{array}$ … ⑨ $\begin{array}{r} 81 \\ +630 \\ \hline 711 \end{array}$

スゴイ！全部筆算で計算できましたね！

学習状況をよく見取りながら、主体的な
学びが実現できるようにする。

まとめを読みましよう。

たし算の筆算は、3けたになっても、位をそろえて、一の位から順にたします。

ところで、3けたのたし算の筆算は初めてだったのに、どうして計算できたのかな？

Point!

それがわかるように、まとめに付け加えたいんだけど…？ なんて付け加えたらよいか？

えっ？ いきおいで、いつの間にかできたから…。

前にやっただし算と同じように筆算を
したらできちゃったんだけど…。

あっ！それか！

たし算の筆算は、3けたになっても、**2けたのときと同じように**、
位をそろえて、一の位から順にたします。

じゃあ、次にどんな計算について考えてみたいかな？

Point!

4けたのたし算にするとか…。

次は、ひき算にして、3けたになっても、2けたのとき
と同じように計算できるかやってみたいです。

なるほど！面白いね！ よし！まだ時間があるから、② までどんどん進んでいきましょう！

前に習った2ケタの筆算を
うまく活用できましたね。

【学習の振り返り】

・筆算の3けたをやってわかりました。はじめて新しい筆算が
出てきました。最初はできないと思ったけど、やってみたら
すらすらできました。

「大きい数の計算を考えよう」

(東京書籍「新しい算数3上」P.52~54)

本時の評価規準 <知識・理解>

- ・3位数の加法の計算が2位数などについての基本的な計算を基にしてできていることを理解している。

「垂直・平行と四角形」

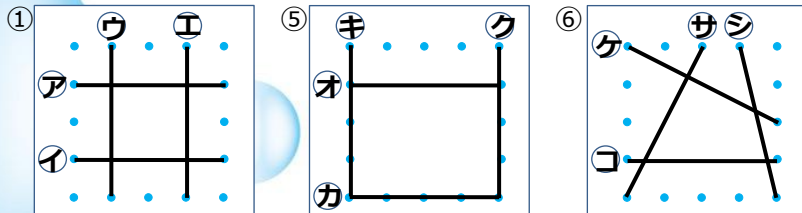
(東京書籍「新しい算数4上」P.64, 65)

本時の評価規準 <知識・理解>

- ・直線の平行の関係について理解している。

第4学年

下の①, ⑤のカードと⑥のカードをくらべて、直線のならび方のちがいを見つけましょう。



直線のならび方について調べていこう。

★上の①のカードで、ウの直線に垂直な直線はどれとどれですか？

教師

ウの直線に垂直な直線は、アとイです。

ノートにまとめを書きましょう。「1本の直線に垂直な2本の直線は、平行であるといいます。」
 ということは、ウの直線に垂直な直線アとイは平行であるといえますね。

★をみんなで確認したら、P.65の▲2まで進みましょう。

間接指導で、問題練習に取り組む。

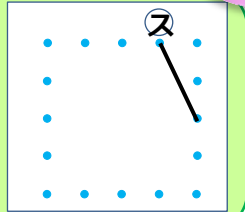
▲1で平行になっている直線は、アとウ, エとカです。

▲2で、直線ABと垂直な辺は、辺ADと辺BCです。また、辺ABと平行な辺は、辺DCです。

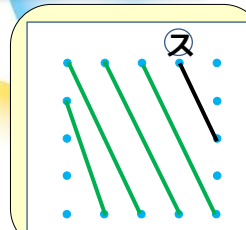
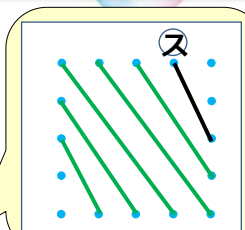
次にどんなカードについて考えてみたいかな？

統合的・発展的に考えさせる発問で、新たな問題発見・解決の過程へ。

じゃあ、右の図で、点と点を結んで、スの直線と平行な直線をひいてみましょう。



Point!

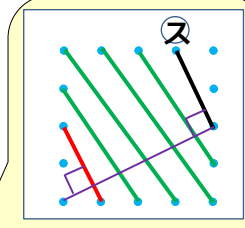


平行な直線と平行ではない直線があるみたい。どうすれば確かめられるかな？

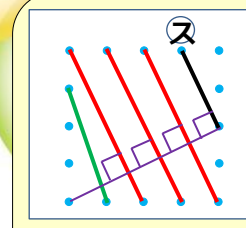
Point!

あっ！垂直を確かめないとい！

スに垂直な直線をひいて、それと垂直かを確かめることが大事だね。



平行は1本だけだ。



んっ？1本違う。

見た目ではなく、まとめにあるとおりに、もう1本の直線との垂直で考えることができるようになったね。

【学習の振り返り】

- ・今日この勉強を習ってわかったことは、平行は、垂直になる直線どうしが平行になるということがわかりました。

平成28年12月2日(金)
岩手大学教育学部
附属小学校
実践事例(4)

・共通導入・共通まとめ、わたりは1回というシンプルな学習過程と「**学びの手引き**」で、子供が主体的・協動的に学べるように工夫しています。
・下学年の終末で上学年の板書を活かしたり、上学年が下学年のときの学びを想起できるようにしたり、**複式学級の特質**を踏まえた活動が見られます。



第3学年

今日は2つの道具をもってきました。
3年生のみなさんは、これです。



ご飯をつくるお釜。



教師



なべ!

おばあちゃんが昔使っていたかも。



昔は、どのようにくらしだったのだろう。

では、前に集まって、羽釜を見ていてください。

次の絵を見て、何か気付くことはありませんか?

直接指導で、絵図を見ながら話し合い、単元の学習課題を設定する。

人がいろいろやっている。

今は機械が多いけど。

かまどの火とか大変そうだ。

誰が何をしているかな?

家のつくりやくらしの様子で気付いたことはないかな?

大家族が、1つの部屋でみんな一緒に楽しそう。

羽釜が、炊飯ジャーになる途中の様子もわかるといいね。



電気を使っていない。

わらや木、石臼とか。

さっきのお釜もある。

みんな何か仕事している。

子供も手伝っている。

家の中で靴はいている。土間だ。

🚩 道具やくらしは、どのように変わってきたのだろう。

間接指導で、昔のくらしや道具について調べる。

学びの手引きの(1)で、まとめたら、(2)をやって、(3)で学習の振り返りまで頑張りましょう。じゃあ、戻りましょう。

3年生 学びの手引き

(1) 学習のまとめ (5分)

黒板をノートにまとめよう。大きな問題をしっかり書こう。

(2) 昔の道具やくらしについて考えよう 1人(2分) → みんなで(5分)

①下は、囲炉裏(いろり)という場所です。いろりには、どんな役わりがあるのでしょうか? ノートに考えを書きましょう。



※ 1人で考えたら、4人であつまって、考えを交流しよう。

②4人で、昔のくらしの絵を見ながら、さらに気付いたことや、今だとどんな道具が変わっているかを話し合ってみよう。

(3) 学習のふり返り (4分)

学習のふり返りをノートに書きましよう。

・昔の道具やくらしについて「分かったこと」のまとめ
・交流したこと、昔の道具やくらしについて考えたこと

く終わったら、次のことをしてみよう。

もしも、昔のくらしのなかで生活するとしたら、どんな感想をもちそうか考えて、ノートに書いてみよう。(なぜ、そう感じたか理由も書こう)

Point!

【学習の振り返り】

・昔は、木や石の道具を使い、大きな部屋で生活していることがわかりました。今は、道具もくらしもかなり変わっているので、その途中でどのように変わってきたのか、もっと調べてみたいです。



昔といいましたが、4年生のグラフでいうと、ここです。

ええ〜! けっこう最近だ!

「さぐってみよう昔のくらし」

「県のさまざまな地いきの様子」

本時の評価規準＜関心・意欲・態度＞

- ・具体物や絵図などの資料の読み取りを通して、古い道具や昔のくらしについて関心をもって
- いる。

本時の評価規準＜関心・意欲・態度＞

- ・具体物や写真、グラフなどの資料の読み取りを通して、二戸市浄法寺町の伝統産業である浄法寺ぬりに関心をもって
- いる。

第4学年

今日は2つの道具をもってきました。4年生のみなさんは、これです。



浄法寺ぬりだっけ？ 去年見た。



うるし！

どこで作っているお椀だっけ？ 二戸？



浄法寺ぬりは、どんなおわんのだろう。

学びの手引きの(1)では、浄法寺ぬりを借りてきたので、ペアで、他の2つと比べてみましょう。(2)、(3)で、資料や写真を見て自分で調べたことをノートにまとめましょう。

Point!

4年生 学びの手引き

(1) 班のペアで、おわんをくらべよう (5分)

- ペアで浄法寺ぬりと、他のおわんをくらべてみよう。
- ・くらべて気付いたことをくわしくノートに書きましょう。
- ・浄法寺ぬりのとくらようを考えてノートにまとめよう。

(2) 岩手県の農林水産物の資料から考えよう (5分)



岩手県の農林水産物の資料①と②から、二戸市のことで分かることをノートに書きましょう。

林産物	全国の順位
生うるし	1位
木炭	1位
まつたけ	2位
生しいたけ	3位

①全国3位以内の岩手県のおもな農林水産物
岩手県庁HP「いわてお産自慢 平成24～25年度データ」より

(3) 浄法寺ぬりを作っている様子から考えよう (5分)



左の写真は、浄法寺ぬりを作っている様子の写真です。写真を見て、浄法寺ぬりについて分かることをノートに書きましょう。

※書き終わったら、ペアで交流しましょう。
時間があれば、他の班の人と交流しましょう。
終わった後、ノートに書き足しをしながら待ちましょう。



間接指導で、浄法寺ぬりの特徴について調べる。

他の2つより重くてツルツルしている。

お椀の底が厚い。この2つは木かな？

残りの1個はプラスチックみたいだけど…

生うるしは全国1位。二戸市だけに印がある。

手作りで、真剣に作っている。押し入れみたいなのに温度計があって、その中で乾かしている。

直接指導で調べたことを交流し、単元の学習課題を設定する。

では、お椀を持って、前に集まってください。

(発表を聞いて) みんないろいろ気付いていますね。

うるしをぬる前がどうかという…。(実物を取り出して見せる)

大変そう…。伝統だ。

これには「伝統工芸品」という名前が付いているんだ。浄法寺ぬりはできてからどれくらい経っているのかな？

鎌倉時代とか？

前に学習した「鹿妻穴堰」は、実は400年前。浄法寺ぬりは、ここ。1300年前なんだ。

1300年前?!

なぜ浄法寺ぬりは、1300年もの間つくられているのだろう。

大きな学習課題(単元の学習課題)を書いたら、席に戻って振り返りを書きましょう。振り返りには、まず、浄法寺ぬりはどういうお椀か、まとめを書きましょう。そして、大きな学習課題について自分なりの予想を考えて書きましょう。

【学習の振り返り】

- ・浄法寺ぬりは、手作業でうるしを使って作るお椀で、1300年も続く伝統工芸品だとわかりました。岩手県でも二戸市でしか作っていないから、伝統になったのかなと思いました。

平成28年10月4日(火)
栗石町立
橋場小学校

実践事例 (5)

・3年生は設定した目標に迫るために、「中」の書き方につながる段落相互の関係について考える場面を、4年生は、文章全体の構成に着目した段落相互の関係について考える場面を明確に位置付け、中心教材を読む学習場面での思考を自分の表現に活かすことができるように配慮しています。



第3学年

第1次 (2時間)

身近な材料がすがたを変えていろいろな食品になっていることを知り、自分が調べた食べ物について「ぼく・わたしのイチオシ! すがたをかえる食べ物紹介」にまとめる学習の見通しをもつ。

第2次 (3時間)

「すがたをかえる大豆」を読み、自分の紹介する食べ物の紹介に役立つ説明の工夫を考える。

- ① 既習段落を活用して形式段落や全体構成(はじめ・中・おわり)を考えさせ、事例の挙げ方について「中」の意味段落に着目し、大豆をおいしく食べる工夫とできる食品について形式段落毎に付箋にまとめ、並べる。
- ② 「中」の形式段落内の文章のつながりを考える(中心となる語や文を捉えながら、工夫から食品、食品から工夫というつながり方の違いを基に読む思考)。
- ③ **形式段落同士のつながりを考え、複数の事例を説明する際の段落相互の関係を考え、文章の構成に必要な考え方を学ぶ(形式段落をいろいろに入れかえた例の挙げ方と筆者の例の挙げ方を比べ、筆者の意図を捉える思考)。**

<第2次③/3: 展開イメージ>

Point!

例を挙げる順序を入れかえて、「中」の形式段落のつながりを考えましょう。

2つ考えました。

まずは、**ウ→エ→オ→ア→イ**で、この並べ方は普段よく食べる順序のつながりです。
もう一つは、**イ→オ→ウ→エ→ア**で、これは、ボクが好きな食べ物の順です。

オ→ア→イ→ウ→エの順を考えました。育て方のところを先にすると、成長に合うつながりになると思いました。

オ	エ	ウ	イ	ア	筆者の組み立て
とり入れる時期や育て方のくふう ↓ もやし ↓ えだ豆	目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふう ↓ みそ ↓ なっとう	大切なえいようだけをとり出してちがう食品にするくふう ↓ どうふ	こなに引いて食べるくふう ↓ きなこ	その形のままいったり、にたりしてやわらかくするくふう ↓ 豆まきの豆 ↓ 豆	筆者の組み立て

間接指導で、実際に付箋を操作しながら、いろいろな組み立てを想定させることが大切です。

つながりの理由で、いろいろな順序ができるね。

いろいろな順序が考えられるけど、筆者は**ア→イ→ウ→エ→オ**の組み立てで書いています。筆者のこの順序のつながりを考えてみよう。

どんな順序のつながりになっているかを、直接指導で考えさせることが大切です。

大豆をそのまま使って、すぐにできる工夫から並べて、だんだん手間のかかる工夫になる順序のつながりじゃないかな。

「いちばんわかりやすいくふう」とあるから、読む人にわかりやすい順序のつながりだと思います。

筆者も形式段落の順序をいろいろ考えた上で、わかりやすく伝わる順序のつながりで、この組み立て方にしたんでしょうね。今日の学習で、この後の学習に役立つことありましたか?

自分の紹介する食べ物の組み立てを考えると、段落のつながり方をいろいろ考えて、読むにもわかるように決めたいです。

成長に合うつながりや、すぐできる工夫の順で考えたことがなかったので、自分が紹介するときにも役立てたいと思いました。

第3次 (5時間)

自分が一番紹介したい食べ物について、事柄のまとめりとつながりに気を付けて文章の構成を考えながら、「ぼく・わたしのイチオシ! すがたをかえる食べ物紹介」を書き、読み合う。

「すがたをかえる大豆」

(光村図書「国語三下」P.30～43)

本時の評価規準<読むこと>

- ・中心となる語や文を捉え、指示語や接続詞に着目しながら、「中」の形式段落のつながりについて考えながら読んでいます。

「アップとルーズで伝える」

(光村図書「国語四下」P.34～47)

本時の評価規準<読むこと>

- ・中心となる語や文を捉え、事実と意見の関係を捉えながら、文章全体の段落のつながりについて考えながら読んでいます。

第4学年

第1次(2時間)

説明のしかたを工夫して、「クラブ活動紹介リーフレット」にまとめる学習の見通しをもつ。

第2次(3時間)

「アップとルーズで伝える」を読み、クラブ活動の紹介に役立つ段落同士の関係や説明のしかたの工夫を考える。

- ① 既習段落を基に形式段落から問いの段落、まとめの段落を仮定し文章構成を概観する。5枚の写真の説明している段落を見つける(内容のまとめりごとに段落があることへの着目)。
- ② アップとルーズの違いを述べている4・5段落を比較し、よく分かることと分からないことをまとめ、段落内の文章の組み立てに着目して対比する説明のしかたやそのよさを捉える(説明のしかたの工夫を捉える思考)。
- ③ 前時の学習を基に、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係に着目して読む(3段落と1・2段落の関係、1～6段落と7段落の関係、全体の文章構成における8段落の役割を考える思考)。

<第2次③/3:展開イメージ>



前の国語の時間では、4・5段落を比べて説明するとアップとルーズがよく分かることやアップとルーズがお互いに分からないことを補う関係であることを読みました。そして、そのまとめが6段落であるということを知りましたね。今日は他の段落の関係を考えましょう。

教師



いつも、問いは1段落だと思っていたけど、3段落だとすると、1・2段落は…?

3段落は「初めの画面のように」や「次の画面のように」とあるから、1・2段落が3段落につながっていると思うよ。

確かに、1段落はルーズを紹介している感じだし、2段落はアップの紹介から始まっているね。写真もあって分かりやすいね。

間接指導で1～3段落のつながりを考えさせた上で、直接指導で7・8段落の関係を考えさせます。

紹介文を書く言語活動に活用できることを、子供が実感できるようにします。

1～6段落のつながりが見つけられたね。これはテレビ映像の例の段落のまとめだね。

7段落は、1～6段落のまとめと関係があるのでしょうか？新聞の写真の選び方は、テレビでの映像の使い方と同じですか？

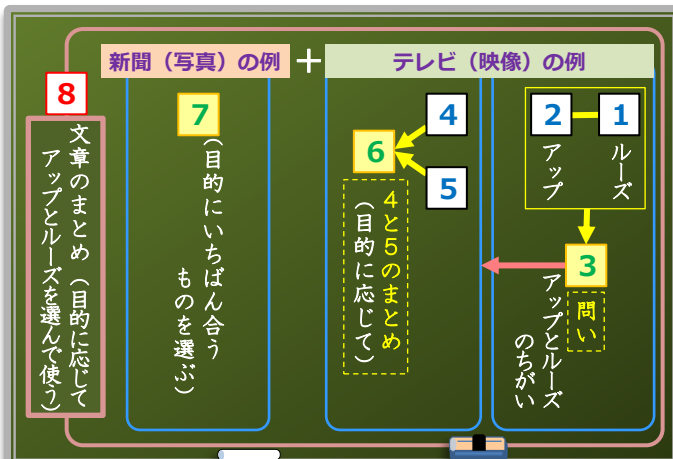
Point!

目的に応じてアップとルーズを選んで使うことが大事ということが同じだから、関係ある。

文章全体の段落のつながりを見つけられたね。今日の学習でクラブ紹介のリーフレットを作るときに役立つような考えはありましたか？

伝えたいことにピッタリ合う写真を選ぶ考えを自分の紹介に生かしたいです。

わたしはバドミントンクラブなので、打ち合いの面白さを伝える文章には、全体が見えるルーズの写真を使えばいいかなと思っています。



第3次(5時間)

自分のクラブ活動で紹介したい内容を決め、アップとルーズの写真の使い方や対比といった説明のしかたの工夫を取り入れて、文章の構成を考えながら、紹介リーフレットを書き、読み合う。



両学年の子供に、学習の見通しをどうもたせるか？

<先生方の声から>

- ・**見通し**のもたせ方について、非常にスピーディーだったので驚きました。私は、本時でいうと、筆算の計算方法や平行の見つけ方を、丁寧に確認するものだと思っていたのですが…？

算数の学習指導に当たっては、**見通し**と**振り返り**が重視されていますが、パターン化して形式的に位置付けるのではなく、子供の学習状況を見取りながら柔軟に位置付けたいところです。子供のより**主体的な学び**の実現に機能する手立てとして工夫することが大切です。

例えば、実践事例(3)の第3学年のように、「もう2人とも筆算できそうだね。じゃあ、どんどん進んでごらん。」として、やる気満々の子供が計算問題に多く取り組めるようにすることが考えられます。その間、第4学年を直接指導できるメリットも生まれます。そして、筆算できた子供に「ところで、3けたのたし算の筆算は初めてだったのに、どうして計算できたのかな？」と投げかけることで、改めて**見通し**を確認します。このようなやりとりが「2けたのときと同じように」のまとめにつながり、さらに、学習を振り返って、**4けたのたし算**や**ひき算**へ発展しようとする姿につながったと考えることもできます。

第3学年では、子供に考えさせる活動と習熟を図る活動が逆のように見えますが、そのおかげで、学習のねらいがより焦点化され、子供が帰納的に考える活動になっています。もちろん、子供がうまく筆算できていないようなら、タイミングをみて**見通し**を確認すればよいわけで、必要以上に先回りせず、**主体的な学び**に向かう子供に寄り添う学習活動の展開を目指したいものです。



黒板や座席配置のメリットとデメリットは？

<先生方の声から>

- ・**正面と後ろの黒板（移動黒板）**を使って指導したほうがよいと聞いたので、そのようにしていますが、他の使い方と比べて、どのようなメリットやデメリットがあるのか？と、いつも気になっています。

黒板の位置や子供の座席や並び方などについては、少人数の特徴を生かしてさまざまに工夫されています。その際には、**それぞれの学習効果を十分に検証し**、効果的な方法を適宜選択することが大切です。

例えば、正面と後ろの黒板を使う場合は、子供は背中合わせなので集中しやすいこと、授業者の視界に常に両学年の子供が入ることなどのメリットがあります。一方で、授業者が教室の前後をわたるので、移動が遠いことなどのデメリットが考えられます。

また、ある子供は、年度始めに家に帰って、こんなふうにしたそうです。

「上の学年になったら前の大きな黒板だと思っていたのに、またぼくたち移動黒板なんだって…。」

複式学級では進級するごとに、上学年と下学年の両方を経験することになります。指導に当たっては、授業者の視点からだけでなく、学習者である子供の想いも踏まえて、例えば、1つのスタイルに固執することなく、教科や内容に応じて両学年の座席を入れかえたり、黒板の位置をアレンジしたりして、よりよい学習環境の在り方について考えることも大切です。





学びを振り返ったり深めたりする時間を確保するには？

<先生方の声から>

- 一方の学年の**直接指導**に時間がかかることが多く、その間、もう一方の学年の**間接指導**がうまく進められません。練習問題をしてもらっても答え合わせだけで終わってしまうこともあり、深められない。
- 学習が深まると時間が足りなくなるし、わからない子供の考えや意見をじっくり聞く時間もないし、いつも**学習の振り返り**までいきません。

複式学級の指導は、**主体的・対話的な学び**について、**間接指導の充実**として日常的に取り組んできたことと捉えることができます。しかし、単に指示どおりの活動をさせるだけでなく、例えば、下のような学び方について指導しておくことが考えられます。

「指示待ちの間接指導」から、「主体的・対話的な学び」の実現へ

- 間接指導では、子供が見通しをもっていることが必要。
- 自分の答えの自信のなさ、不安、聞いてみたい、相談したい、…から、**主体的・対話的な学び**が生まれる。
- ①まずは、**自分で考えてみよう**ね。
- ②次は、**相談してみよう**ね。
- ③いろいろ出たら、**よりよい方法がどれか考えてみよう**ね。
- ④できれば、**自分でまとめてみよう**ね。
- …と、徐々に指示無しでも子供が進められるようになるとよい。

「まず、次に」の話形より

「あ・い・う・え・お」のリアクションを

- **あ**っそうか。
- **い**っしょだ。
- **う**～ん、わからない。
- **え**っ？そうなの？
- **お**もしろい！

また、質の高い理解には、**各教科等の見方・考え方**を働かせ、**深い学び**の実現を図ることが不可欠です。複式学級の指導でも、授業の後半で学習したことを活用し新たな問題解決や討論に取り組ませるなど、豊かな教材研究を基に子供が既習事項と関連付けたり構造化して理解したりできるような場面を設定することが大切です。

したがって、45分間の授業づくりでは、**深い学び**の実現を図る学習活動や**学習の振り返り**の時間を優先し、残りの時間に収まるように、導入から展開への流れをよりシンプルに扱うことが考えられます。算数の適用問題は同内容同構造の問題が多くなる場合があり、これでは答え合わせにとどまってしまうかもしれません。そこで、次時の問題や巻末の補充の問題など、内容や構造の異なる問題も積極的に取り上げ、「**さっきと違う。**」「**んっ？うまくいかない。**」「**どうしたらよいのかな？**」などの気づきを生かして、子供の**主体的・対話的で深い学び**の実現を図るようにすることが考えられます。

さらに、**学習評価の充実**という面では、本時の指導のねらいを明確化し、一人一人の学習状況を捉えることが大切です。「**わたり**」が必須になる**複式学級**では時間がなくて難しいという声を耳にすることがありますが、一方で35人の**単式学級**のほうが大変だという声もあります。**直接指導**には、教師の説明だけでなく、子供の学習状況を適切に捉える役割もあることを再確認し、従来の授業観・指導観をこの機会に見直してみることも必要です。

協力校（事例順）

一関市立本寺小学校（授業提供）
葛巻町立小屋瀬小学校（授業提供）
二戸市立御返地小学校（会場提供）
岩手大学教育学部附属小学校（授業提供）
雫石町立橋場小学校（授業提供）

作成協力（事例順）

県南教育事務所（一関市）指導主事 高橋 聡子
盛岡教育事務所（葛巻町）主任指導主事 西館 修治

関連資料

複式指導資料第33集（平成28年度）岩手の小規模・複式指導ハンドブック
（岩手県教育委員会）平成29年2月
http://www.pref.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/003/306/h28hukusiki0228.pdf
複式指導資料第32集（平成27年度）岩手の小規模・複式指導ハンドブック
（岩手県教育委員会）平成28年3月
http://www.pref.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/003/306/hukusiki27.pdf
平成26年度版 複式学級の特質を生かした 学習指導のすすめ方ガイド
（岩手県立総合教育センター）平成27年2月
http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/siryuu/h26/h26_1405_2.pdf

参考文献

葛巻町授業力向上プランの挑戦 葛巻型小規模・複式指導リーフレット
～ 教科書を開いて考えさせる授業【算数・数学科】～
（葛巻町教育センター）平成27年3月
<http://www.town.kuzumaki.iwate.jp/images/library/File/shigoto/kyouiku/gakkou-kyouiku/h27-fukusikisidou-leaflet.pdf>
南北600kmの教育～へき地・複式教育の手引き～
（鹿児島県教育委員会）平成28年3月
http://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/hekichi/tebiki/documents/51242_20160330005759-1.pdf
これだけは知っておきたい へき地教育ハンドブック
（全国へき地教育研究連盟）平成7年8月
小学校複式学級指導資料 算数編（文部省）平成7年10月



岩手県教育委員会事務局学校教育課

<http://www.pref.iwate.jp/kyouiku/gakkou/shouchuu/003306.html>